

Race to Zero for Universities and Colleges : 東京大学の取組

東京大学 理事・副学長

大久保 達也

東京大学 未来ビジョン研究センター

菊池 康紀

2022年5月24日

UTokyo **COMPASS** 

多様性の海へ： 対話が創造する未来

Into a Sea of Diversity: Creating the Future through Dialogue

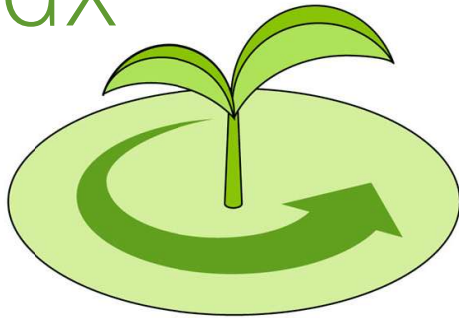
東京大学が目指す理念と基本方針

<https://www.utokyo.ac.jp/ja/about/president/utokyo-compass.html>

UTokyo COMPASS

具体的な行動計画

GX



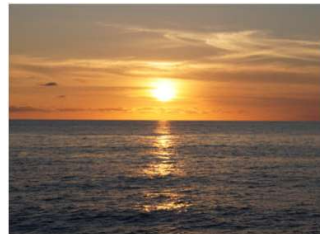
グリーントランス フォーメーション

GX: Green Transformation



国際的なGXを先導

グローバル・コモンズ・スチュワードシップ指標の作成、産学連携プラットフォームETI-CGCを新たに組織、東京大学のCO2実質排出量を2030年度に2006年度比で半減、Race-to-Zeroに参加、GX本部(仮称)の設置



GXを先導する人材の育成

人類の共有財産としての地球システム(グローバル・コモンズ)に関する教育を実施、GXを先導する高度人材育成プログラムの推進



GXに資する地域・産業との協創

脱炭素の実現に向けた実行計画策定の支援、GXに資する先端研究領域における文理融合による産学協創の推進

RACE TO ZERO

Race to Zeroへの加盟

Race to Zero

2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを達成するための行動を呼びかける国際キャンペーン

UNFCCC (国連気候変動枠組条約事務局)が2020年6月に発表

世界の35地域、799都市、4475企業、731教育機関、250金融機関などが加盟 (世界経済の7割以上の規模)

東京大学は2021年10月に加盟 (日本の国立大学として初)



11月のCOP26にて
グラスゴーの会場と日本
を繋いだ学生による対話
イベントを実施

研究・教育の効用を減少させずに都市型大学としてカーボンニュートラルを計画・実行

どこまでの排出を検討するのか？

GHGプロトコルに基づく Scope 1,2,3を対象へ



- **Scope1**：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出 (燃料の燃焼、工業プロセス)
- **Scope2**：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
- **Scope3**：Scope1、Scope2以外の間接排出 (事業者の活動に関連する他社の排出)

算定の仕方そのものの研究も進められている：

→国際機関や国が例示する算定の方法・ガイドラインに差異あり

→新たな算定方法の導入も検討されている (ex HWP: Harvested Wood Products)

対策案の生成と体系的な整理へ：大学らしいアクションも提案

前提条件として

教育・研究の効用を減少させない

条件として

都市型大学としてのCN計画と実行

- 資源循環・エネルギー関連対策
 - 省エネ・創エネ、燃料代替、など
 - 紙、プラスチック、化学物質の購入・リサイクル・廃棄
- 大学として
 - 研究活動による貢献
 - 地域における再エネ導入実証
 - リサイクル等の研究、活動
 - 基礎研究・政策研究
 - 学生による貢献
 - 現役生による活動
 - 卒業生による貢献
 - 教育による貢献
 - 学生教育
 - リカレント教育

- 在宅勤務等による影響の可視化と対策
 - データランザクションに関する負荷変動
 - 自宅の消費エネルギーの増加
- 構成員の行動変容を促進
 - 排出削減の動機付けへ
 - 学内市場化、予算措置
- 社会全体を駆動する取組
 - 政府目標等の実現へ向けた教育・研究による貢献
 - **Energy Transitions Initiative-CGCの立ち上げ**

	A	B	C	D
Most	Avoid			
↑ Preferable ↓	Reduce			
	Substitute			
	On-site renewable			
	Off-site renewable			
	Sequester			
	Offset			
	Least			

対策を発信（参加表明後1年以内）
優先順位と各対策の特徴で構造化（以下は例）

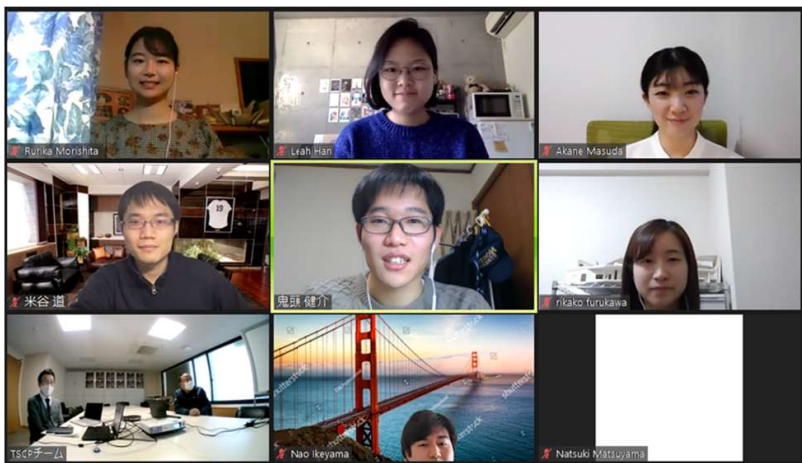
- 対策の実行のしやすさ⇔しにくさの観点
 - 資金面
 - 体制面
- 効果の程度の観点
 - 即効性
 - 寄与度
- 対策の導入を判断する主体
 - 執行部/教職員
 - 部局
 - 学生



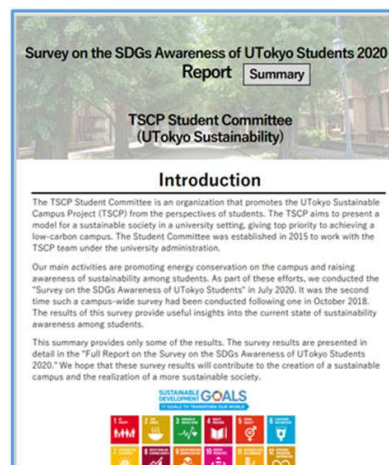
TSCP: UTokyo Sustainable Campus Project

～ 低炭素キャンパスづくりを最優先課題とする全学的な取り組み ～

TSCP学生委員会の活動



学生委員会ZOOMミーティング



東大生SDGs意識調査_報告書



ヒュームフード省エネ啓発ポスター



ワークショップの開催



ワークショップの開催



展示会(エコプロ)への参加



Race to Zero加盟後の学生対話イベント

Race to Zero加盟後、11月のCOP26にて、グラスゴーの会場と日本を繋いだ学生による対話イベントを実施。

東京大学の学生だけではなく、国連大学や海外の大学に所属する学生など、現地の会場でも多数の学生等が参加。

今回のイベントを若い世代を気候変動対策に向けた取組みに巻き込むきっかけに。

Race-to-Zero 目標の達成に向けて

2008: TSCP (Todai Sustainable Campus Project: 東京大学サステイナブルキャンパスプロジェクト)

Oct/2021: Race-to-zeroへの参加

~Oct/2022: 目標と計画の公表

前提条件として

Race-to-Zeroで教育・研究の効用を強化する

現在: 計画の公表へ向けた準備 (~Oct/2022)

- Scope 1, 2, 3 由来の温室効果ガス(GHG)排出量の算定
- GHG排出量に寄与するホットスポットの分析と削減対策案の導出
 - 特に短・中期的な誓約の達成に向けた行動計画の策定

2030: 50%

教育・研究の成果によりゼロカーボンの実現へ